

本資料は 2022 年 2 月 10 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

クレディ・スイスは、アルケゴスの事案、のれんの減損および訴訟引当金の影響を受けた 2021 年通期の税引前損失は 5 億 2,200 万スイス・フラン、基本的な業績ベースの税引前利益は 66 億スイス・フランと公表

「2021 年は、クレディ・スイスにとって非常に挑戦的な年でした。当行の公表した業績は、アルケゴスの事案、2000 年のドナルドソン・ラフキン・アンド・ジェンレット (DLJ) の買収に関連するのれんの減損および当行が積極的に過去の事案の解決を試みたことによる訴訟引当金によってマイナスの影響を受けました。1 年を通して、当行は、2021 年第 1 四半期末以降の（特に当行のインベストメント・バンク部門における）リスク加重資産およびレバレッジ・エクスポージャーの大幅な減少にもかかわらず、安定した純収益で堅調に基本的な業績を上げました。2021 年の最後の 3 四半期間、投資家への現金還元を優先事項とする当行は、全体的なリスク・コントロール基盤を強化するために断固たる行動をとり、サプライチェーン・ファイナンス・ファンドの事案に対するものも含む改善努力を続け、すべての部門のリスク選好を抑制した経営を行いました。当行が明確に重視するのは、2021 年 11 月に発表した新たなグループ戦略の規律ある実行です。それによって当行の核を強化し、組織を簡素化しながら主要な戦略的事業分野の成長に投資することに目を向けています。当行は、より強化した資本基盤および CET1 比率 14% 以上を保持するクレディ・スイス・グループを展開していく予定です。今後数四半期にわたり、当行はグループ戦略を積極的に実行する所存です。当行は、すべての部門における明確な財務目標を設定したうえで、戦略的目標の実行に集中しています。当行には、投資家、顧客および社員に対し継続的な発展および価値をもたらすためにリスク・マネジメントをその DNA の根幹に据えた、より強固で、より顧客中心の銀行を築くための体制が整っていることを確信しています。」

クレディ・スイス・グループ AG 最高経営責任者 (CEO) トーマス・ゴットシュタイン

クレディ・スイス・グループ公表財務指標 (特に指定のない限り、百万スイス・フラン)	2021年 第4四半期	2021年 第3四半期	2020年 第4四半期	2020年 第4四半期比	2021年 通期	2020年 通期	2020年 通期比
純収益	4,582	5,437	5,221	(12)%	22,696	22,389	1%
うち、ウェルス・マネジメント部門関連	3,200	3,270	3,129	2%	13,961	13,607	3%
うち、インベストメント・バンク部門	1,605	2,465	2,337	(31)%	9,719	9,718	-
(百万米ドル)							
貸倒引当金	(20)	(144)	138	-	4,205	1,096	-
営業費用合計	6,188	4,573	5,171	20%	19,013	17,826	7%
うち、のれんの減損	1,623	-	-	-	1,623	-	-
税引前利益 / (損失)	(1,586)	1,008	(88)	-	(522)	3,467	-
株主帰属純利益 / (損失)	(2,007)	434	(353)	-	(1,572)	2,669	-
有形株主資本利益率	(20.1)%	4.5%	(3.5)%	-	(4.0)%	6.6%	-
CET1比率	14.4%	14.4%	12.9%	-	14.4%	12.9%	-
CET1レバレッジ比率 ¹	4.4%	4.3%	4.4%	-	4.4%	4.4%	-
ティア1レバレッジ比率 ²	6.2%	6.1%	6.4%	-	6.2%	6.4%	-
大幅な変動があった項目およびアルケゴスの事業*を除いた調整後の主な財務指標 (百万スイス・フラン)	2021年 第4四半期	2021年 第3四半期	2020年 第4四半期	2020年 第4四半期比	2021年 通期	2020年 通期	2020年 通期比
純収益	4,384	5,504	5,335	(18)%	22,544	22,101	2%
税引前利益	328	1,362	861	(62)%	6,599	4,375	51%

2021年第4四半期のハイライト

純収益は、2021年における当グループ全体のリスク選好度の低下、フランチャイズの勢いへのマイナス影響ならびに2020年および2021年の大部分を占めた例外的な状況からより正常な取引環境に戻ったことなどの影響を受け、前年同期比で12%減少しました。主にプライム・サービスからの撤退³および2020年第4四半期と同等の堅調な業績であったことにより、インベストメント・バンク部門において最も顕著に減少しましたが、当グループのウェルス・マネジメント関連事業においても取引ベースの収益が減少しました。2020年第4四半期における8,800万スイス・フランの税引前損失と比較して、16億スイス・フランの税引前損失には、16億スイス・フランのDLJに関連するのれんの減損および4億3,600万スイス・フランの主要な訴訟引当金が含まれ、2億2,400万スイス・フランの不動産収益により一部相殺されました。

- 2020年第4四半期は8,800万スイス・フランの税引前損失に対し、公表した2021年第4四半期の税引前損失は16億スイス・フラン。この主な要因は、2000年に完了したDLJの買収に関連して、以前公表され、同四半期に計上された16億スイス・フランののれんの減損によるものです。過去の事案への対応の一環として、2021年第4四半期に4億3,600万スイス・フランの主要な訴訟引当金を計上しました。
- 大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後ベースにおいて、2021年第4四半期の税引前利益は前年同期比で62%減少し3億2,800万スイス・フランを計上しました。
- 大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後ベースにおいて、純収益は当年度中のリスク選好度の低下、より正常な取引状況および顧客レバレッジの低下の累積的な影響を受け、前年同期比

で 18% 減少しました。

- 当グループ全体の**新規純資産は、2020 年第 4 四半期の 84 億スイス・フランに対し、16 億スイス・フラン**。これはアセット・マネジメント部門の**新規純資産 47 億スイス・フラン**および**インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門の**新規純資産 27 億スイス・フラン****が、当グループが行った顧客レバレッジの低減およびリスク低減措置を含む、アジア太平洋部門における**32 億米ドル (29 億スイス・フラン)** および**スイス・ユニバーサル・バンク部門における 17 億スイス・フランの純資産流出**により一部相殺されたことによるものです。
- **2021 年第 4 四半期末現在 CET1 比率 14.4%の強固な資本基盤**を有し、2021 年第 3 四半期末と比較して安定している。**ティア 1 レバレッジ比率は 6.2%、CET1 レバレッジ比率は 4.4%に改善**。RWA およびレバレッジ・エクスポージャーの減少により**資本比率およびレバレッジ比率が上昇**。
- **サプライチェーン・ファイナンス・ファンド (SCFF) における改善活動は継続的に進展しています**。投資家への現金還元は引き続き優先事項であり、2021 年 12 月 31 日現在、支払われた現金総額ならびに現在の現金および現金同等物は約 72 億米ドルとなっています。

2021 年通期のハイライト

ウェルス・マネジメント関連事業の純収益の増加による安定した純収益は、**イベストメント・バンク部門の純収益の減少により一部相殺されました**。これは、**アルケゴスに関する損失**、ならびに**2021 年におけるリスク選好の削減およびプライム・サービスからの撤退⁴の累積的な影響**によるものでした。当行は、**アルケゴスに関する事案の影響**、**2021 年におけるより保守的なリスク選好**および**2021 年第 4 四半期に計上された 16 億スイス・フランののれんの減損の累積的な影響**により、**2020 年通期における 35 億スイス・フランの税引前利益**に対し、**5 億 2,200 万スイス・フランの税引前損失**を計上しました。また、当行は**2021 年通期において 11 億スイス・フランの主要な訴訟引当金を計上**しました。

- **株主帰属純損失**は、2020 年通期における**27 億スイス・フランの株主帰属純利益**に対し、**16 億スイス・フラン**。
- **公表した税引前損失**は、前年同期比で大幅に減少し、2020 年通期における**35 億スイス・フランの税引前利益**に対し、**5 億 2,200 万スイス・フラン**。2021 年通期の数値には、**オールファンズ・グループへの持分投資**により生じた**6 億 200 万スイス・フランの収益**および**2 億 3,200 万スイス・フランの不動産売却益**が含まれます。2021 年通期の業績は、**アルケゴスに関する 48 億スイス・フランの影響**、**のれんの減損の発生**による**16 億スイス・フラン**、**主要な訴訟引当金に関する 11 億スイス・フラン**、**ヨーク・キャピタル・マネジメント**に対する当行の**非支配持分の評価**に関する**1 億 1,300 万スイス・フランの減損**、および**1 億 300 万スイス・フランのリストラクチャリング費用**により影響を受けました。
- **大幅な変動があった項目およびアルケゴス*の影響を除いた調整後ベースにおいて、2021 年通期の税引前利益は 66 億スイス・フラン**で、前年同期比で**51%増加**しました。
- **大幅な変動があった項目およびアルケゴス*の影響を除いた調整後ベースにおいて、純収益は 225 億スイス・フラン**で、**インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門の純収益の減少**により一部相殺されたものの、**アセット・マネジメント部門**、**イベストメント・バンク部門**および**スイス・ユニバーサル・バンク部門の純収益の増加**により、前年同期比で**2%増加**しました。
- **大幅な変動があった項目およびアルケゴス*の影響を除いた調整後営業費用は、4%減少し 161 億スイス・フラン**でした。これは、**基礎となるコスト規律を反映**しており、また**変動報酬費用の減少**が、**アジア太平洋部門におけるリレーションシップ・マネージャーの採用**ならびに**リスクおよび統制における採用**を含む**専門家費用**および**戦略的取組みに対する投資の増加**により一部相殺されたことによるものです。**公表した営業費用**は、前年同期比で**7%増加し 190 億スイス・フラン**。これは主に、**イベストメント・バンク部門**および**アジア太平洋部門**において**2021 年第 4 四半期に計上したのれんの減損**が、**報酬費用の減少**によ

り一部相殺されたことによるものです。

- 2021年12月31日現在の**グループ運用資産**は、前年同期比で約7%増加し1.6兆スイス・フランを超えました。**新規純資産は309億スイス・フラン**となり、アセット・マネジメント部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門およびスイス・ユニバーサル・バンク部門における新規純資産により、アジア太平洋部門の純資産流出を相殺しました。
- **ウェルス・マネジメント部門の運用資産**は2020年12月31日現在の7,953億スイス・フランから増加し**8,270億スイス・フラン**となり、新規純資産は113億スイス・フランで、経常手数料の前年同期比9%の増加に寄与しました。

見通し

特に中央銀行が金融引締めを開始したことから、2021年第1四半期の極めて高い水準と比較して、事業活動はパンデミック前の低い水準に戻ってきています。また、当行の株式収益がプライム・サービスからの撤退により影響を受けることが予想されます。しかしながら、年初には低調であったものの、ウェルス・マネジメント事業の年間累計の新規純資産流入額がプラスになるなど、フランチャイズの勢いが改善する兆しが見えています。

2021年11月4日のインベスター・デイでも強調されていたように、2022年はクレディ・スイスにとって移行の年となります。これは、中核事業への戦略的な資本再配分および成長に向けた投資のための構造的なコスト削減の効果が、2023年以降に概ね実現するためです。このような状況から、2022年の業績は、昨年と比較して再編費用および報酬費用が増加することによる悪影響を受けることが予想されます。また、当行の報告業績には、当行が保有するオールファンズ・グループの8.6%の株式の株価の変動（その価値は2022年現在2億400万スイス・フラン下落⁵⁾）が反映される予定です。2022年には、インベストメント・バンク部門から累計30億米ドルの割当資本を拠出し、ウェルス・マネジメント部門およびその他の中核事業に再投資するという目標を達成する予定です。

株主還元

取締役会は、2022年4月29日の年次株主総会で、2021事業年度分として1株当たり0.10スイス・フランの現金配当を株主の皆様へ提案する予定です。これは、2020事業年度分の減額された支払配当金と合致しており、困難な年における慎重な資本配分アプローチを反映しています。配当金の50%は資本準備金から支払われますが、スイスの源泉徴収税は控除され、スイスに居住する個人投資家が個人的な投資として保有する際には所得税の対象ともなりません。残りの50%は利益剰余金から、スイスの源泉徴収税35%を控除された上で支払われます。

サプライチェーン・ファイナンス・ファンドの事案に関する最新情報

昨年、取締役会はウォルダー・ウィスに、サプライチェーン・ファイナンス・ファンド（SCFF）に関する独立した外部調査の実施を依頼しました。ウォルダー・ウィスは、その作業の補佐のためにデロイト・トゥーシュ・トーマツ・リミテッド（デロイト AG）を任命しました。関連する報告書が完成し、調査結果が取締役に報告され、当該報告書はFINMAに共有されました。SCFFの事案がクレディ・スイスに与えるレピュテーション上の影響に鑑み、多数の個人に対して取締役会が適切とみなした措置が講じられました。回収プロセスが継続中であることおよび本件の法的複雑性を鑑みて、取締役会は当該報告書の公表は企図していません。

ファンドそのものについては、当行は、投資家の皆様のためにあらゆる利用可能な回収手段を引き続き追及し

ていきます。2021年12月31日現在、注力分野は2021年2月25日時点の純資産額のうち約22億米ドルを占めています。GFG オーストラリアに関しては、GFG オーストラリアが、残存する元金である約1億7,800万米ドル（利息を含む）を2023年半ばまでに返済することに合意したことに沿って、2021年10月に初回の支払いを受けた後、2021年において引き続き月次の支払いを受けました⁶。カテラについては、ソフトバンクグループ株式会社の多数の関連会社に対する英国で予定されている訴訟に使用するために、米国における書類開示申請を2件行いました。最後に、ブルーストン・リソースズおよびGFGの残りの部分については、あらゆる利用可能な回収手段を引き続き追求します。

また、当行は、2021年12月31日現在、グリーンシル・バンクに対するファイリング手続を通じて5件の保険金請求を行っています。これらの5件の請求は、約12億米ドルのクレディ・スイス・アセット・マネジメントのエクスポージャーに該当します。

2021年12月半ばに第6回の現金支払いが行われた後、2021年12月31日現在、支払い済みの現金総額および現時点の現金および現金同等物は、2021年2月25日時点のファンドの純資産額（NAV）の約72%となっています。現金の支払いに関しては、2021年12月31日現在、投資家の皆様は、約67億米ドルを受領しています。当行の非注力分野における取組みは、引き続き順調な進展を見せており、社債のエクスポージャー残高は、2021年2月25日時点のエクスポージャーレベルから約90%削減されました。2021年12月31日現在、非注力分野は、2021年2月25日時点の純資産額の4億米ドルを占めています。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版（要旨）です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。

* 当グループの業績に含まれる一定の項目除いた業績を示しています。これらの業績は、非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 指標との調整については本メディアリリースオリジナル版の別表をご参照下さい。

脚注

- 1 2020年第4四半期および2020年通期におけるレバレッジ・エクスポージャーは、FINMAに要求されて2020年度に支払われた配当金の調整後、中央銀行預け金1,110億スイス・フランを除きます。FINMAは、COVID-19のパンデミックに対応するレバレッジ比率の計算を目的として一時的な除外を発表しました。かかる一時的な措置は、2021年1月1日時点で失効しました。
- 2 2020年第4四半期および2020年通期におけるレバレッジ・エクスポージャーは、FINMAに要求されて2020年度に支払われた配当金の調整後、中央銀行預け金1,110億スイス・フランを除きます。FINMAは、COVID-19のパンデミックに対応するレバレッジ比率の計算を目的として一時的な除外を発表しました。かかる一時的な措置は、2021年1月1日時点で失効しました。
- 3 インデックス・アクセスおよびアジア太平洋部門のデルタ・ワンを除きます。
- 4 インデックス・アクセスおよびアジア太平洋部門のデルタ・ワンを除きます。
- 5 2022年2月9日の市場終了時点。
- 6 GFG オーストラリアの数値の算出を目的として、豪ドル/米ドルの外国為替換算レート（1豪ドル=0.7416米ドル）が使用されました。